

4/26 (土) 山城総合運動公園太陽が丘球技場B

第1試合 同大 vs 立命大

ちょうど1ヶ月前の京都学生選手権決勝と同じカード。試合の流れも同様に、序盤から同大が試合を支配する。DFラインを高く保ち、組織的なプレスを仕掛け、奪ったボールをショートパスで小気味良く繋いでゆく。開始6分までに、実に3度の決定機を迎えたが、立命大のDF陣が体を張ってゴールを死守した。落ち着きを取り戻した立命大も、カウンターに活路を見出そうとするが、ことごとくオフサイドに引っ掛かり、反撃の糸口が見つからない。

ハーフタイムに、立命大の米田隆監督から「サイド攻撃を上手く使おう。」と指示が飛ぶ。息を吹き返した立命大に何度かビッグチャンスが訪れる。しかし、ここで決め切れなかった事が後々に響いた。

後半19分、同大は、怪我で戦列を離れていた主将でFW⑨松田直樹を投入。この采配がズバリの中、21分、自陣で奪ったボールをMF⑩荒堀謙次が鮮やかなサイドチェンジで左サイドバック⑫林佳祐に届ける。林は余裕を持ってゴール前にクロスを供給し、松田がボレーで叩き込む。残り時間、立命大も必死に反撃を試みたが、同大が凌ぎ、3勝目を挙げた。

(文:サッカーライター ハヤシヒロヒサ)

同大 1 { 0-0 } 0 立命大

得点(アシスト)者  
66分 松田(林)

第2試合 大院大 vs 阪南大

大院大 0 { 0-0 } 1 阪南大

得点(アシスト)者  
82分 木原(西田)

開始早々から、阪南大のFW⑪木原正和が、その卓越したスピードと切れ味鋭いドリブルで大院大陣内に攻め込む。対応に戸惑った大院大はたまたまファウルを繰り返す、阪南大はたびたび好位置のFKから先制のチャンスを迎えた。しかし大院大守備陣が高い集中力でピンチを防ぎ、少しずつ押し返す。大院大は「阪南大の守備は、必ずどちらかのサイドにスペースが空くから、そこを突く狙いを持っていた。」とMF⑥馬場悠主将が明かしてくれたように、サイド攻撃を丹念に繰り返した。ただゴール前の阪南大DFは高く強さもあり、クロスをはねかえし続ける。ともに、狙い通りの攻めは出来ているものの、ゴールを割れない展開が続く。

後半になると、中盤での激しい競り合いが増え、勝利へ向けての意地のぶつかり合いが続く。そこで流れを引き寄せたのは、後半23分、エースストライカー⑬西田剛を投入した阪南大。西田は開幕前の怪我が完治しておらず、短時間勝負で投入されたが、人に対する強さを見せて攻撃をリード。その西田の粘りから、後半37分、この日調子の良かった木原が勝負を決めた。左サイドでボールを受け、カットインしてDFを振り切って見事に右足でジャストミート。このファインゴールで阪南大は今季初勝利をものにした。

(文:サッカーライター ハヤシヒロヒサ)

4/26 (土) 鶴見緑地球技場

第1試合 桃山大 vs びわこ大

びわこが鮮やかに逆転勝ちを決めた。桃山大はゲームのリーダーMF⑩辻和帆が出場停止、加えて発火点となるべきMF2人が故障。なんとかMF⑬渡部泰征を出してチームのカンフル剤の期待をかけたが、前半で息切れた感じ。

前半の桃山大は、強行出場をしたMF渡部がチームを引っ張った。渡部を拠点にした右サイドからの攻めは再三チャンスを作り上げ、前半38分には右からクロスボールをあげFW 29 斎藤達也につながって先制した。また渡部のFKもびわこDF陣には脅威になっていた。

しかし後半は前半に比べ攻守の展開、テンポがゆるみだした桃山大に対し、びわこは動きに鋭さを見せだし、立続けに2点を奪って逆転した。後半8分に左サイドからDF⑫鳥濱誠司の豪快ミドルで同点。後半14分には同じ左からMF⑩佐藤瞬がシュート。一度はGKにはじかれたが、FW 25 篠部拓真が押し込み逆転した。

びわこの勝因は、前半、桃山大の速い攻めとFK、CKなどのセットプレーに、DF陣がよく耐えしので追加点を与えなかったこと。それが後半、フレッシュな気持ちのスタートにつながった。

(文:関西学連)

桃山大 1 { 1-0 } 2 びわこ大

得点(アシスト)者  
38分 斎藤(北江)

得点(アシスト)者  
53分 鳥濱  
59分 篠部(佐藤)

第2試合 関西大 vs 京産大

関西大 5 { 3-0 } 2 京産大

得点(アシスト)者  
6分 金園  
13分 金園  
33分 金園(佐藤)  
63分 藤澤  
89分 佐藤(大屋)

得点(アシスト)者  
67分 渡辺(市川)  
89分 足立(市川)

関西大がFW⑨金園英学のハットトリックなど5得点で京産大を一蹴、首位をキープした。大量点のキッカケは立ち上がり6分のPK。判定は微妙に見えたが金園がキッチリ決めて、早々と関西大はゲームの主導権を握った。京産大のDF陣の気持ちだが、引け気味になったことで、当たりも弱く、出足、ボールへの執着心など全てに後手を踏むことになった。

関西大はカサにかかったように中盤で絶対優位に立ち、前半13分には金園が相手ボールを奪取して2点目、さらに前半33分にも右からFW⑩佐藤悠希が上げたクロスボールを、また金園が頭で合わせて、決定的ともいえるリードを奪ってしまった。このあたり関西大はMF 21 大屋翼を中心に左、右サイドからの攻めも交えた厚さのある組み立てで、京産大を守勢一方に追い込んだ。

京産大がゲーム感を取り戻したのは、後半20分過ぎから。既に4点のビハインドで勝敗は如何ともし難かったが、それでも後半22分に右CKからDF⑫渡辺将基、ロスタイムにFKからと2点を返した。しかし、今日の京産大で反省すべきは、2-4からの同じロスタイムに関西大に5点目を献上したこと。精神面の弛緩を指摘されても仕方ないだろう。

(文:関西学連)

## 4/26 (土) しあわせの村運動公園陸上競技場

## 第1試合 近畿大 vs 姫獨大

前節、一部で初勝利をあげ、このまま連勝といきたい昇格組、姫獨大。一方、対戦相手の近畿大は、開幕戦から得点をあげながらも失点が多く、3連敗中と苦戦している。上位進出へ向け勢いをつけるため、勝ち星がほしい両者の対決。軍配があがったのは、近畿大だった。

なんとしても先制点を挙げたい両者だが、強風の影響もあり、前半は思うようにプレーが展開できない。そして前半終了間際、近畿大DF③小倉悠史のパスをMF⑩平石竜真が決め、均衡を破った。後半、追いつきたい姫獨大は守備をかため必死に守りカウンターを狙うが、攻撃に人数をかけた隙を近畿大に突かれ、後半40分交代で入ったFW⑩前田竜太が中央ドリブル突破。手薄になった姫獨大DFを抜き去り、前田が放ったシュートはゴールネットを揺らし、試合を決定つける追加点を上げた。その2点リードを守り、失点を許さなかった近畿大が待望の初勝利を勝ち取った。

試合後、初勝利に喜ぶ近畿大DF⑤山口惇也主将は「3連敗していたが下を向かずにやってきたので、今日勝てた。今後、決定力の強化と、攻守の切り替えを速くしていきたい。」と述べた。連勝とはいかなかった姫獨大、GK①家木大輔主将は「守備は狙い通りだったが、2失点目は攻撃を狙いにいったときにやられてしまった。攻撃が足りない」と課題を口にした。

(文:フリーライター 久住 真穂)

近畿大 2 { 1-0 } 0 姫獨大

得点(アシスト)者  
44分 平石(小倉)  
85分 前田

## 第2試合 関学大 vs 大教大

関学大 0 { 0-0 } 0 大教大

連戦前の大事な戦い。勢いをつけるため勝ち点3がほしい両チームの試合は、警告8枚、退場者1人を出す激しいものとなった。前半は立ち上がりから両者ハイペースで動き、ボールの奪い合いとなる。前半25分には、関学大に最初のチャンスが訪れる。ドリブル突破からファウルをもらい、格好の位置でフリーキックを得る。しかし、蹴りだされたボールはゴールを割ることなく得点機会を逃す。その後も関学大の攻勢で試合が進むも、スコアレスで前半終了。後半に入っても関学大の勢いは衰えず、幾度となくシュートを放つも枠に入らない。また訪れた絶好のフリーキックも大きくはずしてしまう。対する大教大は必死の防戦から中盤でボールを奪い、カウンターで少ないチャンスを生み出すが得点には結びつかず0-0で試合は終わった。

スピードが持ち味の関学大、それに対応する大教大。「3:7で関学に押されていた」と大教大、入口豊監督は謙虚に答えたが、退場者を出しながらも大教大は関学大の怒涛の攻撃をファール覚悟で守備に徹し、互角の戦いを繰り広げていた。一方、ドリブルと素早い切り返しで攻撃を仕掛けていた関学大は、シュートを14本打ちながらも無失点に終わったことを考えると、最後を決める決定力、セットプレーでの勝負強さが必要だ。引き分けとはいえ、関学大はここまで負けなし。GWの連戦でも、このまま関学大の不敗神話は続くか。

(文:フリーライター 久住 真穂)